

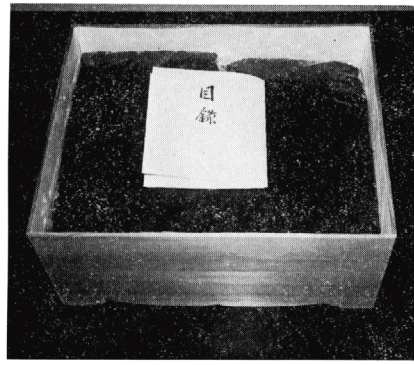


宗像大社 毎月十五日発行 宗像大社 毎月十五日発行 宗像大社 毎月十五日発行

神具、装束 結納式用品 本店 電話東京(三三)四一三番

玄海の幸新若布を献上

神郡宗像の漁民が厳寒の中採取



厳寒の玄海灘の荒浪で育った早春の新若布が二月十九日、天皇・皇后陛下下

この若布献上は、当社社の御神徳が皇室安泰、国家鎮護にあるという由縁を以

二月十八日、午前八時三十分、小雨の降る中本殿に於て、若布献上奉告祭が厳

二月十九日、前日までの雪が翌のような小春日和の中、午前十時、坂下門より

皇居へ参内した。先ず一は、宮内庁掌典部に於て、掌典殿の方々に挨拶をした後、藤井掌典輔

宗像大社司 養父 守 権林直 門司 成人 神湊漁協組長 辰田 丹次 地ノ島 児島長太郎

御礼申し上げます。昭和六十二年 献上若布奉告者 宗像大社司 養父 守 権林直 門司 成人 神湊漁協組長 辰田 丹次 地ノ島 児島長太郎

稲作と神社神道

現在の農業を象徴するものに、減反政策と圃場整備事業がある。生産技術の向上などによる米の生産過剰時代に入

お、第二位のソ連は七割である。アメリカの農産物にもチーズ、バターなどの酪農製品をはじめ、棉花、砂糖など

新年祭の行われる季節を迎えて、ふしなればならないという意見もある。米の自由化問題は食糧法改正を狙

具体的な実践事例として、すでに神饌田の復活がいくつか伝えられている。氏子内の敬神家の協力によるもの

今年も早く、これに誘われてが当社境内にもうけるが、うぐいすは春告鳥、歌

（評）瓶の冬ばらに己を投げて、影で余すところがない。特に下句の描写は、巧みで、言うよりも真実である。

（評）伝説と現実との組み合わせが意外なまでに照準して、おもしろい。三句は一考の余地ありと見る。

自由ヶ丘 後藤君代 佐保姫の領巾振りし山にのぼり来て原子婿二つならぶ海見

第三〇八回 宗像大社歌会詠草 中村吾郎 選

田熊 鷺津かつ代 會孫はランドセル背に喜べり風呂敷色の昔ながらの白き冬ばら

（評）瓶の冬ばらに己を投げて、影で余すところがない。特に下句の描写は、巧みで、言うよりも真実である。

（評）伝説と現実との組み合わせが意外なまでに照準して、おもしろい。三句は一考の余地ありと見る。

自由ヶ丘 後藤君代 佐保姫の領巾振りし山にのぼり来て原子婿二つならぶ海見

自由ヶ丘 後藤君代 佐保姫の領巾振りし山にのぼり来て原子婿二つならぶ海見

# 建国祭 齋行

## 国家紀元の日を祝し

去る二月十一日午前十一時、当大社本殿において斎行された建国祭の奉仕も、父宮以下神職の奉仕も、と、氏子・崇敬者多数参列の中、建国祭が厳粛に斎行された。

この日は終日曇りがちな天候であったが、祝日であって社頭には多くの参拝者で賑わいを見せていた。

定刻、齋館前庭に列立した宮司以下神職、参列者は一鼓の合同の後、参拝者に進、齋館にて参拝を受け、拜殿に昇進、祭典が開始された。先ず、神武天皇が日向の高千穂を出生されて国家統一をなされ、大和の權

原宮にて初代天皇として即位された偉業を称え奉ると共に、皇室の隆栄と国家の安泰・国民の平寧と国家の富の祝詞が奉納された。

この日は終日曇りがちな天候であったが、祝日であって社頭には多くの参拝者で賑わいを見せていた。

定刻、齋館前庭に列立した宮司以下神職、参列者は一鼓の合同の後、参拝者に進、齋館にて参拝を受け、拜殿に昇進、祭典が開始された。先ず、神武天皇が日向の高千穂を出生されて国家統一をなされ、大和の權

## 三十六歌仙扁額 (一)

### 1 絵馬をみていく

楽松子

神仏に己れの加護を求め、また願いを託す。古来から信仰を目的として額に絵馬を奉納して、この額が神に奉納されている。この額は、対外貿易で巨萬の富を築いた堺の商人達が、職つて巨大で華麗な扁額を描いた、いわゆる馬形絵といわれるものがほとんどであった。絵馬を御殿に掲げる風習は、奈良時代(一四〇〇)年前、奈良発祥してきたといわれ、各地に残っているその頃の絵馬は、やはり画面が多岐にわたる。巨大化し華美な模様の扁額が多く、隆盛の時代を迎えた。これはやはり庶民文化が、当時も小形の絵馬が主流であったようである。

初期の絵馬は、小形の板に図柄が簡単な馬を描き、ほとんどもが墨絵か単調な色彩を施す程度の、素材も木であった。応仁の乱以後の室町時代も末期の各地と、戦乱にあけくらく各地

しかし終戦を境に連合国の占領政策による民主主義政治推進の一環として、昭和二十二年に廃止された。その後、神社界が中心となって、昭和二十五年より紀元節復活運動が起り、年々、全国的な国民奉祝行事等を行い世論の喚起につとめ、その努力が実り、国民自身による「日本国家皇室の起源は是非定まらぬことはならない」という強い願望によって、昭和四十四年に「建国をしのび、国を愛する心を養う」として「建国記念の日」と名称を改め、祝祭日と定められた。

宗像大社菊花会開催

宗像大社菊花会は九州・山口地区各地菊花同好会の花大会を主催する宗像大社菊花会の昭和六十二年度総会が去る二月一日午前八時より当社齋館にて開催された。

宗像大社菊花会は九州・山口地区各地菊花同好会の花大会を主催する宗像大社菊花会の昭和六十二年度総会が去る二月一日午前八時より当社齋館にて開催された。

宗像大社菊花会開催

宗像大社菊花会は九州・山口地区各地菊花同好会の花大会を主催する宗像大社菊花会の昭和六十二年度総会が去る二月一日午前八時より当社齋館にて開催された。

宗像大社菊花会は九州・山口地区各地菊花同好会の花大会を主催する宗像大社菊花会の昭和六十二年度総会が去る二月一日午前八時より当社齋館にて開催された。

宗像大社 春まつり(保存会)御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

昭和六十二年三月吉日

宗像大社 事務所

宗像大社 春まつり(保存会)御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

昭和六十二年三月吉日

宗像大社 事務所

宗像大社 春まつり(保存会)御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

昭和六十二年三月吉日

宗像大社 事務所

# 神郡社寺めぐり

## (変り行く神郡)

神郡と呼ばれる旧宗像郡(一市、三町、一村)の社寺を思いつづきま、由緒、社名、村社まで六十緒、敬神の深さを身に感じ、一度まとめてみる必要を覚えた。

「宗像神社史」の境外撰末社の項を見ると、鎌倉時代まで知られた郡内所々には、延喜式内の織幡神社以下その数については、寛喜三年(一一三三)四月五日官宣旨の中に、「大小七十社」とある

の、その概数を示した最初である、と云われている。これに

宗像郡に漂着した難破船の取得をもつて、これに宛めていたが、この年これを折に、東郡の曲村(現宗像市曲)四十町の地をこれに宛てることとした。と記

現在まで伝えられている神郡内七十五社百八神と云われるのは、郡内各所に地の産土神であったと考えられる時代差はあるけれども、この社が宗像大社の末社とせられたのは、伊勢神宮の摂末社の例と同じ神領であったため、本社の大宮司の管轄下に置かれたために外ならない。……と記されている。

……と記されている。

宗像郡に漂着した難破船の取得をもつて、これに宛めていたが、この年これを折に、東郡の曲村(現宗像市曲)四十町の地をこれに宛てることとした。と記

現在まで伝えられている神郡内七十五社百八神と云われるのは、郡内各所に地の産土神であったと考えられる時代差はあるけれども、この社が宗像大社の末社とせられたのは、伊勢神宮の摂末社の例と同じ神領であったため、本社の大宮司の管轄下に置かれたために外ならない。……と記されている。

……と記されている。



## 出版!!

「むなかたさま」

この宗像大神を祀る宗像郡の要衝の地である宗像の地を治め、我が国と大陸とを結ぶ一番重要な海上の通路を

宗像大社は昔々も存在した。太古から脈々と息づいてきた。昔年の長い歴史があり、信仰の春に当大社は、小形で持ち運びが便利なガイドブック「むなかたさま」を発行した。

この本は、当大社の歴史と伝統を、又現代社会に於いても、重要な役割をはたしている姿を、端的にしかもわかりやすく書き現わした解説書です。

宗像三女神の出現は、日本最古の歴史書「古事記」に記載されているように、神話の時代



宗像大社歌会  
俳句作品集(三)

福岡中央 力丸玄風  
弱(か)げりなき日はこと  
さらに春めし  
池田 小田しめの  
茅の絮むかし耕せし山より  
たつ  
名古屋 野崎 傳三  
賽銭を噛むや干割れの鏡餅  
田熊 安部 ゆき  
帯目に梅なほ清き神の庭  
藤 沢 井上 玄洋  
低く寄せ優しく崩る春の波  
津屋崎 井浦 良介  
湯船の広さに肩触れ合えり  
忘れ雪  
津屋崎 西住喜三郎  
潮風の蔭の口溜りすみれ草  
田熊 力丸 一郎  
春日あび會孫立ち初む昨日  
今日  
鐘崎 岩瀬 辰夫  
窓を開ければ沈丁花香漂へ



福間 広渡一寿軒  
高らかに雲雀のり来る春の  
風

(続)  
決の寄物

海漂器と台湾の叫び

中華人民共和国の福建省 閩南語が話されているところ、日本の新聞やラジオに報道されることは、ほとんどないが、現実には、  
昨年(一九八〇)二月



施小宁、張木珠  
奇武器奔自由

まつりと生活(四)  
神社について

神社は神様をお祭りするところ、周知のとおり、わたしたちの生活に深く関係している。このまつりと生活の関係を、まつりと生活(四)として、神社について、お話ししよう。

この船は多数の兵器や弾薬類を持っていたので、小型のボートに乗り、海を渡り、台湾に上陸した。この船は、海漂器(漂流物)と呼ばれている。この船は、一九四二年、台湾の高雄に漂着した。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。

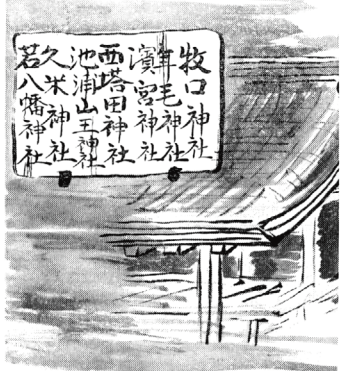
この船は多数の兵器や弾薬類を持っていたので、小型のボートに乗り、海を渡り、台湾に上陸した。この船は、海漂器(漂流物)と呼ばれている。この船は、一九四二年、台湾の高雄に漂着した。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。

海漂器は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。

海漂器は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。この船は、海軍の艦隊の旗艦であった。

宗像むかし話 (17)

西塔田神社



西塔田神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。

西塔田神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。

西塔田神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。この神社は、宗像郡の西塔田にあり、古くから祀られてきた。